

## ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第6回〕

## 『弦が揺れると、僕は季節の風になる』

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

ヴァイオリニストのあるべき体型

廻ること二年前のお正月。

「美味しい！美味しいなあ。あれ？今日何個食べたっけ？」「八個……」「あ、やば……」

僕が一年で一番太るのは、間違いなくお正月です。

2年前、磯辺焼きのあまりの美味しさに一週間で7キロ増を記録しました。急にそれだけ太ると、身体の変化がよくわかります。鏡の前に立つと、あられもない自分の姿が映っています。

このまま人前に立つわけにはいかない……と人生で初めてのダイエットを敢行しました。夕方4時以降は炭水化物を完全に抜く方法を試したら、みるみる痩せて、二週間で元どおりになりました。

時々、寝る前に尋常じゃなくお腹が空くという地獄をみますが、どうやら自分には合っていたダイエットでした。

しかしここで一つ気になる事実が。それは、

『ヴァイオリンの巨匠はほとんど皆幅がいい』。

オイストラフ、パールマン、アイザックスターンetc.名だたる巨匠は皆、しっかりした体型をお持ちなのです

(オブラートに包んだ表現でお届けしています)。

肉厚な手で押さえたほうが豊かな音が出るからです。

僕も昔、ヒステリックではない音を出すために、レッスンで「弦を指の先ではなく指の腹で押さえない」と言われたものです。

しかし、鏡の目の前にいるのは、ピジュアルなんぞを気にしている自分。自分自身に問いかける。

お前はどちらをとるのだ。音か、体型か。

プーさん体型は音の豊かさに直結する。

数キロの違いでも安定感が違うのを実際にお正月にも感じています。

それに対して、こんなに若いうちから崩れたフォームで舞台上に上るのもどうなんだ、という思い。色々な想いが巡りましたが、そもそもこの二択で良いものだろうか……？

僕は答えを野球に見出しました。

イチロー選手はメジャーリーグに行った時に、いかに筋肉をつけてパワーを発揮するか、という従来のアメリカの考え方とは裏腹に、しなやかさを大切にして自分自身の哲学からト

レーニングを積んで、あれだけの偉業を成し遂げています。

ヴァイオリンに置き換えても、ヴァイオリンは元々ヨーロッパ生まれで、そもそもヨーロッパの方やロシア人は、日本人のように華奢じゃありません。

ならばイチロー選手のように、日本人として、持ち前の自分を大切にして、そこから自分自身の哲学を構築しよう。

まずはしなやかな身体作りから！どうぞ、生温かく見守ってください。



## profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。  
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。  
2010年キングレコードからメジャーデビュー。  
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。